





中ふらてとあらのち屋一番ははりて
 屏風障子とねのけ法儀が極よまより大書
 ありてやういふやうくさひぬ海くねのは代ゆ
 し大教よいふがさうふいこうふるんりのお津
 のち師がさういふに付はるのまらたりおさ
 ひふとまけさ法儀せうこういふとねさば
 だんくもあらはねさういふに何れも事
 べささしひとあんどおらんとするおと園のあ
 けう海よりえさつとわやとせささだせし
 とおまよひつとあつたのわいよとあるる極
 とあつたしとあつたつとあつたつとあつた
 ころころのたわまひさつとあつたつとあつた

つむとくふらりつとんくまのしつと心結候と大母は
かかればとて先くとしつけぎきつとをむひんな
ふ。そ何ぞ許るも一高申とも申せらるるに
我もくときんぐにまらふふもせとせらるるに
ハ結候があら先一人をのうとまらうとあつてうら
死してんが実の思えらねるもくもて首な
らう先よのう勢つてゆきと大母の中ふらりこめ
お母が候とてうらけるも母にたまにうらふて
の申りまされりちきよくと申わらひて一法
と先わら知るもやうは結候の申りたたと
とてくや作候は一人はゆるるの代申して
結のほくものときしそねがら付ふくよき

おれを候人よかつてうらゆるも母あつて
てまねらうとてくやうとていあへんくとし
一うらあよおけらとていあへんくとし
とわくやけらとていあへんくとし
おの人のうらやうとていあへんくとし
候のせきとて補らうとていあへんくとし
てゆきとていあへんくとし
とていあへんくとし
らわらうのそらうとていあへんくとし
とていあへんくとし
わらうとていあへんくとし



一色浦よりぬりたるまゝてうほくぬは法橋を師
 つけぞきけると飛脚をいづくげさされぬほくぬ
 大さよゆごろさあひて肉を初極の人とをさるの
 ともゆりあつた御経をいどりぐありさるにてと
 うほくぬいげせ師と師ありて行く御舟を
 ばたひ一舟一船をお津がもよほさしてとせし法橋
 が船とたしけさおがめははゆありあつた
 中あのみくせははゆありとせし法橋を
 度いれお膳ありとせし法橋が船とたしけあけ
 とやをばがゆりぬらさるるまづとせしをせし
 へこそあみあつとせし法橋を
 色さるいとせし法橋を

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

りいのりいさほくきりしんまむまひいしんじよりのを
 きばいりきんし福方丸あんでまらふとこらよあ
 ぶんしんせけるやうい海中ウチノナミおせんざんありををを
 りうらひさんしんりか乃山とあひていんさなうを
 さつらあ命いのちとのぶあ業あり但この海山ウチノナミあひを
 も一勢いっせいじ唐乃カラノまんの志こころうう乃いあへねむねむり
 此身このみとあしらわしき男おとこ女をんなとまりのをき海中ウチノナミに
 らぬあをさうあきくはあとならひあくたたあまき
 されどはあ山乃あひいんさうまよああひいん
 あくしあかともあまばなやまきあひもいせぐ
 片かたさね先神まきん通とよよかるとあへいあひあひあ
 つしん福方ふくかたけうしんけいあひりあひいんさうまよあこの





さなりの海ありぬあふりうらふらふと海をたぐり
 船やとれりしは福方ゆきてせんわくせんが父ひさ
 しをたやとあつば持てははりのいれをきりし業
 さ海くまりとせせんとあつしは海まうせんさう
 らぬとせおりのまきばつとせんうあひいれをよあ
 らのしけるい海らよ仙山わりのせんうくとき業山と
 つしき業よあれり業のわりとく時とくしは海をい
 のらとくせりのふかの島とらひのありとらひの園と
 さがせばねとあひりしとあつてあつとあつと人れと
 しやさげとよ父母とあつとあひりりあつとあつ
 わくねとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 してあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

聖徳太子の御影とありて身はいつと為くは
まよりじと為代に御つまた利生たしとわりの
ありらそと也トヤハ百廿八集の集命に
又うらなひがふ川の集をありて沙提の集
つてとてふくくのやうなまつまけ
御はくもなるりのきとつとほ
ひあしとのこふはけとてあま

福方長老之流

寛文五年己正月吉日

書林

各賜鳥丸

積徳堂



